

草津、この風土に熱き想い。

横江まさのり

<http://yokoe-masanori.net/>



まさのり通信 第10号

2021（令和3）年5月

横江まさのり後援会

〒525-0061

草津市北山田町 922-15

TEL/FAX 565-1135

masanori.y@wind.ocn.ne.jp

月に遠く おぼゆる藤の 色香哉（与謝蕪村）

◆緑風の候

風も薫る五月になりました。みなさまにはいつも「横江まさのり」をご支援、ご支持していただき厚く御礼申し上げます。2期目も2年目になろうとしています。コロナウィルス禍も収束どころか変異株の出現から感染が拡大しています。草津市でもワクチン接種が始まりましたが、絶対量が少なく全市民に行き渡るのもまだまだ先になりそうです。実は私もコロナに罹患してしまいました。その経緯を下に記述させていただきます。

◆定例市議会

令和2年11月24日～12月16日、令和3年2月26日～3月25日、それぞれ定例市議会が開かれました。

昨年10月に監査委員に就任し議会での質問ができない立場になりました。別紙に草政会としての代表質問を掲載しました。

◆道路整備

木川町の通称日光街道と上笠橋へ通じる市道との交差点付近の道路路肩が地権者と地元町内会に協力していただいた写真のように拡張整備されました。また、長年の念願だった浜街道の草津川橋の撤去工事が近々始まります。



◆コロナに罹患して

発熱

1月15日の朝、少し熱を感じ医院に行きました。37度台の微熱ではありましたが念のため翌日16日のPCR検査を草津総合病院で受けるように予約していただきました。しかし、パルスオキシメータ（血中酸素濃度測定器）の酸素飽和度が95を下回り息苦しさを感じたため、急遽、草津総合病院で検査、診察を受けました。陽性であることが判明しました。

ホテル隔離生活

保健所の指示により翌日の16日に彦根市の療養施設としてのホテルに入り隔離生活が始まりました。コロナの症状としてよく言われます嗅覚や味覚の障害は何もありませんでした。廊下へ弁当を取りに行く以外は全く外へ出られず、家族とスマホでやりとりするだ

けが世間とのつながりでした。議会が閉会中とは言え議員としてのいろいろな仕事、懸案事項もあり気持ちが落ち着きませんでした。しかし、精神的に焦ったところでどうすることもできず、もう今は何とかしてコロナを克服しようと決めました。定期的に体温と酸素飽和度の測定をして食事の具合などと共に医師と看護師に電話で報告していました。部屋でテレビと読書で過ごしました。しかし容体は変わらず、2日ほどして熱が38度台になり酸素飽和度も低下し倦怠感が増しました。

入院

発熱して6日目の21日、彦根市民病院に入院するように指示されました。その日から5日間連続の点滴を受けました。朝、昼、夜の検温、酸素飽和度の測定、食事の状況、せき、たん等の状況を記録し報告してありました。酸素吸入、心電図、酸素飽和度の測定はモニターで常時管理、レントゲン、採血を数回してもらいました。

入院後2日目からは熱も36度台に下がりました。テレビで療養中のコロナ患者が急変し死亡するケースもあるとの報道を聞いたとき、自分もいつ容体が急変するのではないかとの不安に駆られました。その後、再び熱が上がることもなく連続点滴も終わり、一日一回の点滴を10日間続けた結果、陰性になりました。2月4日に退院許可が出て帰宅しました。

自宅療養

医師からは病気は完治したので普通の生活に戻ってもよいと告げられましたが、念のため2週間自宅で待機し退院後の体調管理に努めました。そして2月中旬より議員としての職務に戻ることができて現在に至っております。

感謝、感謝

医療現場が仕事とは言えコロナの感染のリスクがある中で献身的に治療に当たっていた主治医、看護師さんを始め医療スタッフの皆さまに心から感謝しております。24時間私の容体を看ていただき温かい言葉をかけていただきました。本人の私は当たり前ですが私の命に真面向き合ってください本当にありがとうございました。感謝の気持ちしかありません。

お詫び

発症の数日前の私の行動について保健所から問われました。家族はもとより濃厚接触者や接触者が判定され、数人の方がPCR検査を受けられました。その結果、私の家族1名が陽性で隔離入院しましたが、他の方々は陰性との判定でした。しかし、それぞれの方に1週間から2週間の自宅待機を余儀なくさせてしまいました。申し訳ない気持ちでいっぱいです。

私は議員という立場から人との接触が多く日頃から手の消毒、うがいは頻繁に行っていましたが、残念ながら感染してしまいました。保健所からも再度詳しく聞かれましたが、どこで、どのようにして感染したのか皆目分かりません。これが感染症なのでしょう。陽性と分かったときは、なぜ私かという気持ちでしたが原因が分からずとも感染したのは事実であり、それをしっかり私自身受け止めなければならないと思いました。

私の場合、比較的早く入院させていただき幸いにも軽症であったこともあり命を助けていただきました。コロナに罹ったのも何かの宿命、貴重な経験と捉えて今後もなお一層、少しでも皆様のご期待にお応えできるように頑張ってお参りたく思います。変わらぬご支援をよろしく願いいたします。